

地域の皆さまに信頼される病院として  
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構  
神戸中央病院  
〒651-1145  
神戸市北区惣山町2丁目1-1  
TEL 078-594-2211  
FAX 078-594-2244  
<http://kobe.jcho.go.jp/>

## 新年度のご挨拶

病院長 松本 圭吾



令和4年度の始業にあたりご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルスが日本に「上陸」してはや2年が過ぎ、3度目の春を迎えました。

100年一度といわれる今回のパンデミックが日本においても社会、経済、医療に与えた影響は甚大で、生活様式を一変させています。当院は、通常の一般診療に加えて、行政の指示のもと新型コロナ患者の外来、入院診療を担当してまいりました。この間、コロナ関連で幾度か困難な時期を迎えましたが、何とか乗り越えてまいりました。これらの難局を乗り越えたことで残されたものは少なからずあります。一言で言うと、レジリエンス（復元力、回復力）がついたと思います。一般的な意味での「レジリエンス」は、あるシステムが、何らかの要因で混乱に陥った時にそこから元にもどる力という意味で使われることが多いと思われれます。一方で、「レジリエント・ヘルスケア」という医療分野の危機管理の体系では、「レジリエント」は単に打たれ強くなるのではなく、インシデント・アクシデントの検討による再発予防に加えて、上手くいった事例を最大限に活用する視点も提唱されています。新型コロナ感染の終息が未だ道半ばのなか、コロナ禍で得られた「良いこと」を最大化する視点も今後の医療の発展には重要と考えます。

さて、今年度は、待望の脳神経内科常勤医の着任と欠員がある消化器内科でスタッフが補充され、当院は急性期総合病院としての充実した態勢づくりへ動いてまいります。今春は新たに80名を越える常勤職員が着任します。新しい力は病院および地域医療を発展させる力となると信じています。

また、地域住民の皆様には、市民セミナーなど集会による病院のご案内ができない代わりに、最新の診療科情報を載せた病院案内の小冊子を夏までにはお届けしたいと考えております。地域の医療・介護スタッフの皆様に対する情報提供・研修については、オンラインによるリモート会議も導入予定で、ポストコロナ・ウィズコロナ時代に即した発信体制をつくってまいります。

本年度もJCHO（ジェイコー）神戸中央病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和3年度春の叙勲

### 尾崎 美智恵 前看護部長が受章

令和3年4月29日付けで発令されました令和3年度春の叙勲において当院の尾崎美智恵前看護部長が長年の看護功労功績により瑞寶単光章（ずいほうたんこうしょう）を受章されました。コロナ禍の状況を勘案し皇居宮殿での拝謁は行われず、2月25日神戸中央病院にて手渡し致しました。おめでとうございます。今後の益々のご活躍を職員一同お祈りしております。

事務部長



## 近隣医療機関のご紹介

# アユ形成外科・皮膚科

〒651-1233 神戸市北区日の峰2丁目3-1 神戸北町センタービル4F

TEL 078-586-6606 FAX 078-586-6605

HP▶<http://www.ayuclinic.net/>

診療科目: 形成外科・皮膚科

診療時間:

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	●	●	●	×	●	●	×
16:00~18:00	●	▲	●	×	■	×	×

※駐車場: 有(300台)

※近隣コインパーキング: 有

※車椅子への対応: 可

※最寄駅: 箕谷駅 バス停: 日の峰2丁目

▲: 予約手術

■: 時間予約診療



下間 亜由子 院長



関西医大を退職後、平成20年に日の峰で開業させていただきました。開業するまで北区の地理も全くわからず、間違えて降りた山の街駅から日の峰まで歩いて一時間も道に迷ったこともあります。開業後も未だ日々手探り状態でJCHO神戸中央病院の先生方にはご迷惑をおかけする事をお詫び申し上げますと同時に大変感謝しております。形成外科出身のため小手術をさせていただいております。美容形成・美容皮膚科は行っておりません。待ち時間の短縮のため順番予約システムのアイチケットを導入致しました。コロナ禍で病院の勤務の方々は大変なご苦労をなさっていると思います。出来るだけご迷惑をおかけしないように自分の出来ることを勤めて行きたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

## 研修医 (1年次)



イダ コウタロウ  
飯田 幸太郎

初期研修医として2年間お世話になります。生まれ育った北区の地で研修出来る事を大変うれしく思っております。よろしくお願いたします。



シミズ ミツキ  
清水 光希

今年から神戸中央病院で働かせていただきます清水光希です。出身は兵庫県で運動はサッカーをしてました。未熟者ではありますが、精一杯がんばりますのでよろしくお願いたします。



トタニ リサ  
戸谷 梨沙

4月から研修医としてお世話になります。兵庫県出身です。至らない点も多々あるかと思いますが、日々精進してまいりますので、よろしくお願いたします。



ナカニシ ニナ  
中西 仁奈

京都府立医科大学のたすきがけで参りました。1年という短い間ですが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いたします。



フルモト ユウ  
古本 裕

研修医としてお世話になります。地元の神戸で医師としてのスタートを切ることができ、嬉しく思います。精一杯頑張りますので、よろしくお願致します。

# 新任医師紹介

ヨシダ トモカツ  
吉田 誠克：脳神経内科



脳神経内科の常勤として赴任致しました。地域のニーズに応えることができるように頑張ります。よろしくお願い致します。

キタ エイサク  
喜田 栄作：消化器内科



4月より赴任致しました。北区の医療に貢献できるように頑張りますので、よろしくお願い致します。

アオノ ソウタ  
青野 颯太：消化器内科



4月より消化器内科で勤務させていただきます。地域の皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

キヨタ メイ  
清田 芽依：整形外科



整形外科専攻医の清田と申します。研修医の2年を含めて3年間兵庫医大に勤務しておりました。初めての外病院でなれないこともたくさんありごめいわくをおかけすると思いますが、精一杯がんばりますので宜しくお願い致します。

ハシモト ショウ  
橋本 翔：循環器内科



4月より勤務させて頂きます。患者様の立場に立った、親身な医療を提供していきたいです。よろしくお願い致します。

マツバ ヒロユキ  
松葉 裕之：血液内科



4月より赴任致しました。神戸市北区の医療に貢献できるようにがんばりますので、よろしくお願い致します。

ヒロハシ マサト  
廣橋 昌人：消化器内科



4月より消化器内科で勤務させて頂きます。医のため、人のために貢献できるよう研鑽を積んで参ります。宜しくお願い致します。

ナカムラ ケイ  
中村 慶：外科



初めての地域ですが、少しでも貢献出来るよう頑張ります。御指導宜しくお願いします。

オダニ ヒトミ  
小谷 ひとみ：糖尿病内科



4月より糖尿病内科で勤務させていただきます。地域の皆様のお役に立てるよう精進致しますので、よろしくお願い致します。

ヨネダ ヒデキ  
米田 秀輝：消化器内科



4月より消化器内科で勤務させて頂きます。地域の皆様のお役に立てるよう精進致します。よろしくお願い致します。

フクザキ ハヤト  
福崎 隼：整形外科（外傷・肩関節）



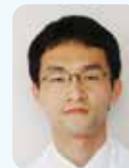
4月より赴任致しました。地域医療に貢献出来るよう精進して参ります。宜しくお願い致します。

クワハラ ミキ  
栞原 美樹：腎臓内科・透析



4月より腎臓内科で勤務させていただきます。地域の皆さまのお役に立てるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

ナエシロ ユウキ  
苗代 悠輝：脳神経内科



4月より脳神経内科にて勤務させて頂きます。地域の皆様のお役に立てるよう精一杯努めてまいります。よろしくお願い致します。

オオイシ ハヤト  
大石 隼人：整形外科



4月より整形外科で勤務させて頂きます。少しでも地域の皆様にご貢献出来るよう精進致しますので、宜しくお願い致します。

タケウチ ヤスヒロ  
竹内 康浩：脳神経外科



4月より脳神経外科で勤務させていただきます。地域の皆様のお役に立てるよう、精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

ハヤシ シンヤ  
林 真也：循環器内科



今年度から循環器内科専攻医となりました林真也です。皆様のお役に立てるよう精進してまいりますので、よろしくお願い致します。



## 緩徐進行1型糖尿病(SPIDDM)について

2型糖尿病のような1型糖尿病、緩徐進行1型糖尿病(SPIDDM)についてお話しします。

緩徐進行1型糖尿病(SPIDDM)は主に自己免疫的機序により膵臓にあるインスリンを分泌するβ細胞が破壊されインスリンが分泌されなくなり慢性の高血糖状態となり糖尿病を発症します。1型糖尿病に含まれますがβ細胞の破壊が緩徐であるために、急性発症1型糖尿病や劇症1型糖尿病と異なりケトアシドーシスを発症し発見されることは少ないとされています。つまり2型糖尿病のような発症形式をとります。抗GAD抗体など膵島関連抗体を測定していない場合には2型糖尿病と区別できません。よって2型糖尿病として治療を受けている場合があります。SPIDDMと2型糖尿病を鑑別しないままではどのような不都合があるのでしょうか。それは、SPIDDMは進行が緩徐ではありますが将来的にはインスリン依存状態(生命の維持のためインスリン注射が必要)になる可能性があります。SPIDDMの治療としてインスリンを早期から用いることで膵β細胞を保護することができインスリン依存状態になるのを遅らせることができると言われています。一方、古くから2型糖尿病で使用されているSU薬をSPIDDMに用いるとインスリン依存状態に進行する可能性が高まることが言われています。インスリン依存状態での血糖コントロールは非依存状態に比べて難しいのでインスリン依存状態にしないというのはとても大切です。SPIDDMを早期に発見しインスリンを導入することでインスリン強化療法を用いなくても少ない回数のインスリンで血糖が安定し、そしてインスリン依存状態に進行するのを防ぐことのできている患者さんが複数当院には通院しています。

抗GAD抗体は初診で糖尿病患者さんが受診した時、急に血糖コントロールが悪化した時に測定しSPIDDM例を見逃さないことが大切です。抗GAD抗体陰性の患者さんが経過途中で陽性化するような症例も存在します。

最後にSPIDDMとは異なりますが先日、ニボルマブ：ヒト型抗ヒトPD-1モノクローナル抗体投与後に発症した1型糖尿病を経験しました。自然発症の1型糖尿病と比べて発症頻度が高率ですので治療経過中の血糖上昇には注意が必要です。

### 退任医師のお知らせ

内 科：山本 智美	消化器内科：江田 裕嗣	整形 外科：大西 政彰
内 科：伊藤 愛	外 科：藤田 悠司	整形 外科：湯川 晋弘
内 科：西尾 晃	脳神経外科：青木 拓磨	整形 外科：鈴木 伸芳

研 修 医：向井 潤 湯徳 祐樹 山形 冬樹 木村 ひなの 中西 諒



### 第3回「北神戸医療連携セミナー」のご案内

担当 循環器内科 日時 令和4年7月14日(木) 19時から  
場所 当院 2階会議室 及びWEB形式によるハイブリッド方式

問合せは、地域医療連携室まで

